



サン・マイクロシステムズ主催

Open Cloud Innovation Forum

日時：2009年6月25日

16:20-17:10

場所：東京ミッドタウン ホールA

## パネルディスカッション『拡大する SaaS ビジネスとクラウドとの接点』

クラウドコンピューティングのクライアント環境をセキュアに提供する GRAND BERRY

パネラー：

株式会社 応用電子

代表取締役社長 & CEO

矢野 正博

### 1. パネラーの個人および企業としての SaaS ビジネスとの関わり

モデレータ：

簡単に自己紹介をお願いいたします。合わせてこのパネルのテーマでもある、SaaS への関わりについてもご紹介ください。

矢野：

応用電子の矢野でございます。弊社はクライアントの OS メーカーでありますので、クライアントサイドからお話させていただきます。よろしくお願いいたします。

#### <自己紹介>

まず、当社の簡単な説明ですが、リナックススペースで商用 OS「GRAND BERRY」を開発製造し販売している会社です。社歴は 20 年以上ありますが、OS メーカーとしての開発・事業展開はここ 2 年ほどであります。少人数の会社ですが、世界的に名のある開発者も数名おり、特にブロードバンド化に積極的で先進国である日本における次世代ネットワーク系の OS メーカーとして評価を得てきております。

#### <SaaS との関わり>

早速 SaaS ビジネスに関して話を始めさせていただきますが、Gartner ですか IDC といった調査機関のレポートによると、クラウドで提供されるサービスの導入に当たっての企業の懸念事項は、セキュリティ面、運用面での脆弱性だということが述べられております。

たとえば、企業のデータは機密性が高いので、システムを運用する特権ユーザーは物理的、制度的に管理、チェックされなければなりません。SaaS の場合、特権ユーザーはベンダー



側におりますので、ベンダー側を監視・制御できるということが必要になってまいります。

こう言った面はクラウドのサーバー側での課題となりますが、クライアント側で申し上げますと、やはり機密性を守るということは必須でありまして、今後、モバイル・ブロードバンドの発展に伴い、さまざまな場所でオペレーションをすることになってくると思います。その場合に、クライアントのユーザー認証を多要素認証にして、他人がアカウントを使いまわすようなことがないようにすることが必要です。ましてや遠隔地でのオペレーションですから、どのような場面でも本人確認が確実にできる方法、指紋認証ですとか、ワンタイムパスワードを使う方法をパスワードに組み合わせた多要素認証が必要だと考えております。

また、PCを持ち運んだり、自宅のPCを使うというシーンも多くなるわけですから、PCをシンクライアント化して、失くしたり盗まれたりしても、企業の情報が決して漏れることがないような対策も必要です。

弊社では、クラウドにも対応できるクライアント用のOSを、そのような観点で開発してきております。

#### <GRAND BERRY について>

少しだけ、弊社製品について述べさせていただきますが、

特に申し上げたいのは、モバイルキャリアが国内で5つございますが、その全てのハイスピード・データ通信端末に対応しております。GRAND BERRYは、世界の主要メーカーのチップセットにリナックスで対応できるのが弊社製品の強みです。来年NTTドコモ様で商用化が実現するLTE（ロング・ターム・エボリューション）にも対応を予定しております。

また、クライアントとサーバーの間の通信路を暗号化するために必要なVPNですが、F5ネットワークス、ジュニパー、シトリクス、シスコ、三菱マテリアル、それにPPTPと、メジャーなリモートアクセスVPNに広く対応しております。今後更に対応システムを拡充する予定です。ハイスピード・データ通信端末の対応の幅広さ、新しいチップセットへの対応の早さと合わせ、リモートアクセスVPNへの対応の広さがGRAND BERRYの大きな特長です。

まとめとしまして、GRAND BERRYのロードマップをご覧ください。ハイスピード無線ブロードバンドの高速化に対応して行くと共に、認証技術の拡充、プロファイル機能などへの対応など、クラウド・コンピューティング時代に相応しいクライアント側プラットフォームをGRAND BERRYは提供してまいります。



## 2. SaaS を逆の立場で見る

モデレーター :

逆に SaaS とつながる立場。クライアント側から見た場合、SaaS のグレーな部分というところ、どんな点があげられるでしょうか？矢野さん・・・」

矢野 :

先ほどお話したこととつながりますが、ユーザーがクラウド導入に対して不安を感じている点は、セキュリティ、パフォーマンス、可用性、社内の IT システムと統合する際の障壁などが挙げられております。この中で、クライアントサイドで実施すべきセキュリティの対策としては、ユーザー認証と、情報漏洩の防止策が必須であると考えております。

## 3. エンジニア、アーキテクトが考えるべきこと

モデレーター :

SaaS、クラウドが同時に利用可能になったとき、それらのメリットを確実にユーザーに届ける(あるいは自社でそのメリットを享受する)ためには、誰が何をすればいいと思われませんか？それはエンジニアでしょうか？アーキテクトでしょうか？それとユーザー自身でしょうか？

矢野 :

エンジニアを否定するわけではありませんが、私は、アーキテクトの重要性が増してくると思います。当社の場合、クライアント側システムのアーキテクトとして、クラウド時代にふさわしいクライアント側プラットフォームをご提供し続けていきたいと考えております。

## 4 最後一言

モデレーター :

ありがとうございました。最後に皆さんから SaaS、クラウドへこれから取り組もうと思われている方々へ一言お願いします。

矢野 :

ぜひとも、クライアントとして GRAND BERRY をお試しいただければ幸いです。

以上